

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和8年度病害虫発生予報第4号（7月）

令和8年度病害虫発生予察注意報第4号

令和8年度病害虫発生予察注意報第5号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室

電話 0561-41-9513

ファックス 0561-63-7820

令和8年度病害虫発生予報第4号（7月）

令和8年7月3日

愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	紋枯病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない 7月の気温は高い	± ±～- +
	トビイロウンカ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 6月末までに飛来予測があった	± ±～+
	セジロウンカ	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い 6月末までに飛来予測があった	± ±～+
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない	-
	斑点米カメムシ類	平年並	県全域	畦畔における6月の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並 7月の気温は高い	- ± +
	フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

・防除対策

[イネ・セジロウンカ]

本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

イネの斑点米カメムシ類について、出穂2～3週間前までに、斑点米カメムシ類の発生源となる水田畦畔や本田内のイネ科雑草を除草しましょう。また、今後イネカメムシの発生も予想されます。防除対策等は、6月2日発表の「斑点米カメムシ類情報第1号」や今後発表予定の病害虫発生予察情報等を参考にしましょう。ミナミアオカメムシは、予察灯の誘殺数が一部地点で多い状況のため、今後の発生状況に注意しましょう。

イネいもち病は、BLASTAMによる感染好適日が県内各地で複数回出現しています。今後のほ場での発生状況に注意しましょう。詳細は本日発表の「イネいもち病(葉いもち)情報第2号」を参照してください。

イネ白葉枯病は幼穂形成期から出穂期までに発生が目立つと減収などの被害のおそれがあります。発生後の防除は困難なため、前年発生が多かったほ場では、出穂3～4週間前に防除しましょう。また、畦畔等の除草を徹底するとともに、浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行きましょう。

ヒメトビウンカは、6月下旬の巡回調査での発生量が多い状況でした。イネ縞葉枯病の発生を認めた場合は、本病を媒介するヒメトビウンカの防除を行きましょう。ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が高い一部地点では注意が必要です。詳細は6月16日発表の「イネ縞葉枯病情報第1号」を参照してください。

トビイロウンカは、現時点では巡回調査及び予察灯による調査での発生を確認していません。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第1号」を参照してください。

ニカメイガは、近年被害の多い地域では、第二世代幼虫による被害に注意が必要です。詳細は本日発表の「ニカメイガ情報第1号(水稻)」を参照してください。

スクミリンゴガイは、6月下旬の巡回調査での発生ほ場率が過去10年間と比較して最も高い状況でした。スクミリンゴガイが確認され、移植から3週間経過していないほ場では、浅水管理をこころがけましょう。

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおいて、オオタバコガ及びシロイチモジヨトウの誘殺数が多い～やや多い状況です。詳細は本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第4号(オオタバコガ)及び第5号(シロイチモジヨトウ)」を参照してください。ハスモンヨトウの誘殺数について一部地点で多い状況のため、今後の発生状況に注意しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並か少ない	－ ±～－
	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の孢子形成量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	ミカンハダニ	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月のモモの被害新梢率は少ない	+ -
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	灰星病	やや多い	県全域	4月の発病花率が多い 7月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-
	ナシヒメシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 6月のモモの被害新梢率は少ない	+ -
	ハダニ類	平年並	県全域	6月の発生量は少ない 7月の気温は高い	- +
ブドウ	べと病	やや少ない	県全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
	黒とう病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	6月のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
カキ	角斑落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	円星落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	うどんこ病	平年並	県全域	6月の発生量は平年並	±
	コカイガラムシ類	多い	県全域	6月の発生量は多い	+
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+

・防除対策

農薬を使用する際は、収穫前日数に注意しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

カネマイトフロアブル、ダニオーテフロアブルなどで防除しましょう。

[モモ・灰星病]

インダーフロアブルなどで防除しましょう。発病果実は伝染源となるので摘除して土中深く埋めるか、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

[カキ・コナカイガラムシ類]

トランスフォームフロアブルなどで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

農薬散布にあたっては、収穫前日数に十分注意して散布しましょう。6月2日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

・留意事項

クビアカツヤカミキリの成虫が複数地点のモモ園で確認されています。6～8月は成虫の活動が盛んな時期です。モモ、ウメ園で発生を確認しましたら、直ちに捕殺し、収穫前日数に十分注意して農薬散布しましょう。詳細は、5月18日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参照してください。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺数は多い状況が続いています。ほ場での発生に注意し、適切に防除しましょう。

野菜

・留意事項

オオタバコガ及びシロイチモジヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。詳細は本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第4号（オオタバコガ）及び第5号（シロイチモジヨトウ）」を参照してください。

ハスモンヨトウは、ダイズほ場に設置したフェロモントラップの一部地点で誘殺数が多い状況です。今後の発生状況に注意してください。

ブロッコリーやキャベツの黒すす病が一部地域で問題となっています。育苗中は高温多湿を避け、発病株は早期に処分しましょう。

イチゴ炭疽病の育苗ほ場での発生が多くなる時期です。農薬の予防散布に努めましょう。発病が見られた場合、発病株とその周辺の株は直ちに抜き取り、適切に処分しましょう。

アザミウマ類やコナジラミ類は病原ウイルスを媒介します。発生がある施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、病原ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

2月に中山間部でトマトキバガが多数越冬しているほ場を確認しています。疑わしい被害が認められた場合は、トマトキバガに適用のある農薬で防除し、被害葉及び被害果は適切に処分しましょう。また、病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課へお知らせください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	白さび病	やや多い	山間部	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並か少ない	+ ±～-
	アブラムシ類	やや多い	県全域	6月の発生量はやや多い	+
	ハダニ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	アザミウマ類	やや多い	県全域	6月の発生量は平年並 7月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は多い 7月の気温は高い	+

・防除対策

[キク (露地・山間部) ・白さび病]

発生ほ場では、アミスター20 フロアブルやダコニール 1000 (※) などで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょ。

※薬液による汚れ等に注意 (ラベル記載の使用上の注意事項をご確認ください)

[キク (露地) ・アブラムシ類]

発生ほ場では、ウララ 50DF やトランスフォームフロアブルなどで防除しましょう。

[キク (露地) ・ハダニ類]

発生ほ場では、カネマイトフロアブルやコロマイト乳剤などで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション散布を行いましょ。

[キク (露地) ・アザミウマ類]

発生ほ場では、ファインセーブフロアブルやハチハチ乳剤などで防除しましょう。

[キク (露地) ・オオタバコガ]

フェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。防除対策等は、本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第4号」を参照してください。

・留意事項

シロイチモジヨトウは、フェロモントラップにおける誘殺数が多い状況です。詳細は本日発表の「令和8年度病害虫発生予察注意報第5号」を参照してください。

また、ハスモンヨトウは、ダイズほ場に設置したフェロモントラップの一部地点で誘殺数が多い状況です。今後の発生状況に注意してください。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台7月2日発表)

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

〈予想される向こう1か月の天候〉

期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い: 10% 平年並: 40% 高い: 50%

[降水量] 少ない: 40% 平年並: 40% 多い: 20%

[日照時間] 少ない: 30% 平年並: 30% 多い: 40%